

## 学力調査の意義と対応

「今日の明日」となってしまいましたが、6年生は、「全国」、3～5年生は、「岡山県」の、一斉の学力・学習状況調査が行われます。さる4月12日（火）には、6年生のみの対象となりましたが、「学力調査はなぜ行うのか」の「意義」と、「どう向かうのか」の「対応」について解説する「飛び入り授業」を行いました。



上図にある通り、人は、折り合いを付けたり争いを避けたりする上で、「話し合い」や「説明」など、「言葉の力」を多分に駆使してきています。大げさな言い方かもしれませんが、「言葉の力」は、「生きる力」とも考えられます。

ひつよう なに ちから  
Q 必要なのは、何の力？

ことば ちから  
**言葉の力**

Q どうしたら身に付くの？

ことば つか  
**言葉を使う**

Q 言葉を使うのは、何の教科？

すべ きょうか  
**全ての教科**

がく りよく  
**学力**

=

ことば ちから  
**言葉の力**

1 なぜ「学力」か

A ことば ちから みつ 言葉の力を身に付けることが必要であるから。

A い ちから 生きる力を身に付けることが必要であるから。

では、「言葉の力」は、どうすれば身に付くのでしょうか。私たちは、日常、辞書を読んで言葉を学んでいるでしょうか？…いいえ、そうではありませんね。そうです。「言葉の力」は、言葉を使うことによって身に付くものであると考えられます。さらに、その言葉を使う授業場面は、国語科だけではなく、算数科で問題の解き方を説明するにしても、学活でクラスの問題を話し合うにしても、言葉を使い、「言葉の力」を身に付けているのです。算数科で身に付ける「言葉の力」は、「学力」です。すなわち、「学力」は、「言葉の力」であるのです。

2 何が「学力調査」か

A ことば ちから 言葉の力がどれくらい身に付いたか、**書き言葉**で説明し、**確かめる調査**。

3 どう対応するか

Q 人は、ひと ことば ちから 言葉の力をどのようにして身に付けるか？

まな まね  
**学ぶ = 真似ぶ**



3 どう対応するか

A① てほん まるうつ ししゆ 手本の丸写し(視写)から始める。解き方の真似び

A② ちようさ もんだい と ほかの調査問題に取り組み、真似びの検証

これまでのことから、「学力調査」は、「言葉の力」を測るものであり、また、それは、「話し言葉」ではなく、「書き言葉」で測られるものになります。最後に、それへの「対応」の在り方となりますが、それは、小さい子が「言葉の力」を身に付けるときのことをイメージすれば想像がつかれるかと思えます。そうです。「真似」です。一説によると、「学ぶ」は、「真似ぶ」がその由来であるとされています。手本としての正答例を丸写し(視写)するもよし、ほかの調査問題に取り組み、「真似」の検証をするもよし…。今後も、「真似び」を大切にしていきたいと思えます。

※ カラー版を Web ページに掲載しています。ご覧ください。→[http://www.kurashiki-oky.ed.jp/otoshima-e/letter\\_3\\_2\\_2\\_4.html](http://www.kurashiki-oky.ed.jp/otoshima-e/letter_3_2_2_4.html)